



青柳 賢治 議員

福祉向上のためにも、確かな財源を

稼ぐ力を確かなものに

問 花見台拡張予定地区及びインターチェンジランプ内地区の現状、課題は。

答 企業支援課長 2月開会の埼玉県議会において、平成30年度から平成32年度の3カ年事業での嵐山花見台工業団地拡張地区産業団地整備事業として審議される予定と聞いており、議決後には年次計画や詳細な工程計画が示されるものと考え



花見台拡張地区の実現で持続発展の町に

早期の誘致こそ確かな財源に

答 早期の誘致に立ち向かう

え、来年度の用地交渉や都市計画手続きに向けた準備作業を整えている。

インターランプ内の民間開発計画については事業者より林地の開発許可、都市計画法29条に基づく開発許可に向けた準備を行っている。

嵐山で子育てを

問 妊娠期から18歳まで切れ目のない子育て支援を推進する課としての課題や成果は。

答 子育て支援課長 子育て支援と児童福祉の業務を一つの課で行うことにより、支援が必要な児童、親、家庭の情報が共有でき

児童虐待等問題の早期発見、予防、早期支援にもつながっている。平成31年度に開設を予定している、子育て世代包括支援センターの事業展開が課題。

再 町民への事業説明も必要では。

再 地域支援課長 今回の武蔵嵐山駅周辺10年計画のように大きな事業を実施する際には地域に対して説明会を開催し理解を得るよう努めてきている。

再 区の総会に町から出向くことは。

再 町長 人員的に難しい。



長島 邦夫 議員

寒さも和らぎ助かるが、今度は花粉で辛いよー！

問 誰しもが利用できる公共交通は住民の生活の基盤である。本数の増減や全面廃止となれば、多少なり我慢をしてそこに住み続けられるか、行政サービスが大きく関わる。利用者が少なくても、住居を構え生活ができる地域であるとすれば、公共交通機関は欠かせない。

答 地域支援課長 現在実施している高齢者、妊産婦等交通弱者のタクシー補助事業が最適と進めている。また合理的とも考えて

公共交通が何もない状況は避けなくては!!

答 実態を注視し、財政も勘案、総合的に進める

いる。しかしながら交通弱者の方々の実態も注視しつつ、インフラの進化、財政的状况も勘案し、住民の足を確保したい。

再 平成28年8月広報には「オンデマンド交通サービスの更なる情報分析をする」とあるが進捗は。

再 地域支援課長 時善の方法がとれるよう情報収集を進める。

学校橋下の野外施設の管理について

問 当施設は利用者の趣味志向により冬場の利用状況が大きく変化している。喜ばしい部分と戸惑う部分と

町は複雑と推察するが、町が担う部分の管理について伺う。

答 企業支援課長 河原から1段上がった草原広場については、町体育施設として河川占有を受け、夏場は観光協会が環境美化協力金を徴収し、維持管理をしている。

再 冬場の利用は夏場と違い、多くの方が薪を燃やし暖房している。火器の安全管理及び冬場の管理者は不在と見えるが状況は。

再 企業支援課長 占

わせ、前向きに管理できるよう、観光協会とも協議し対応する。



嵐山の新しい観光施設！管理もしっかりと安全に！